

THE 17 TH WINNER

まちなみ部門



◎ 太田邸

龍助町

施主 太田 哲郎
設計者 慧工芸舎
一級建築士事務所
施工者 二宮建設株式会社

道路交差点に建つ。家並景観の連続感に配慮しつつ低層の建物とし、角地での威圧感を軽減すると併に、坪越しに庭木が散見されるよう図るなど、諸点で細かい景観的配慮が施されている。



◎ わくわくコマツ2号館

こまつの杜

施主 株式会社小松製作所
設計者 株式会社大林組北陸支店
一級建築士事務所
施工者 株式会社大林組北陸支店

こまつの杜に位置。おおらかで抑揚感のある造りによって既存施設群との一体化を図り、市民に集いと憩いの場を提供するとともに、駅東口の開放感と親しみのある都市景観の強化と魅力付けに寄与。



◎ 木場潟公園 西園地展望休憩所

今江町

施主 石川県
設計者 株式会社 金沢計画研究所
施工者 道場建設株式会社

白山を遠望する木場潟の一画にあって、人々の散策と憩いの拠点施設としての役割を果たすと共に、風景と同化しつつ、周囲を取り囲む眺望景観や自然景観の魅力の一層の顕在化に寄与している。

広告部門



◎ ワタリ電気 社名看板

大川町

施主 ワタリ電気
設計者 株式会社カーロカーラ
施工者 株式会社イング

整備されてきた界隈景観に同調するよう気配りのある独立看板と共に、エコ環境を連想させるグリーン色を基調にサイン板・自販機などへのトータルカラーコントロールも図っている。

ごあいさつ

講評

小松市には、靈峰白山、木場潟、日本海など美しく雄大な自然景観や寺社、町家などにみられる歴史的・伝統的な建築物も多くたたずんでおり、先人たちによって大切に守り、育てられてきた個性豊かな風景が様々に見られます。また、木場潟において、昨年、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜り開催された全国植樹祭では、市民の皆様と共におもてなしの心を育み、ふるさとこまつへの想いが高まった一年となりました。

さて、「こまつまちなみ景観賞」は本市の魅力あるまちなみの創出に貢献している建築物などを選び、その関係者を顕彰するものです。平成11年から始まり、今年で17回目を迎え、今回は、全国植樹祭を記念して、「お庭部門」を新設しましたところ、70点のご応募をいただき、各部門で6点が入賞されました。今回受賞されました方々には心からお祝い申し上げます。

本市においては、NEXT10年ビジョンのスタートの年として「新たなまちのブランド力向上」を目標に、より一層、こまつブランドに磨きをかけ、「北陸の際立ったまち『国際都市こまつ』」を目指して、新しい時代にふさわしいまちづくりを創り上げていきます。市民の皆様には、今後とも魅力ある、小松らしい景観づくりに積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、審査にあたりご尽力いただきました審査委員の方々、また、多くの関係者の皆様方に感謝申し上げます。

今年度から新たに「お庭部門」を加え、一層充実した景観賞となりました。環境への配慮が大きなテーマとなっている21世紀、縁多き自然景観と手入れの行き届いた縁多き都市景観を保持し育成していくことは極めて意義のあることです。小松では、今も、よき里山や田園景観、そして趣味良き庭園を持つ人々を多く目にすることができます。この部門がこれから果たす役割も大きいと考えます。

今回、まちなみ部門で37件、広告部門14件、夜間景観部門3件、お庭部門16件の応募があり、一次審査でまちなみ部門については9件、広告部門4件、夜間景観部門3件、お庭部門で4件に絞り込みました。引き続き現地審査を行い、市内7カ所で行われた市民投票結果(総数それぞれ939票・448票・454票・447票)を加味しつつ、最終的に「まちなみ部門」3件・「広告部門」1件・「夜間景観部門」1件・「お庭部門」1件を入賞として選出しました。

今年度は部門数が増えたこともあり、まちづくり全般に係わる様々な角度からの景観整えの意義と重要性を再確認するよい機会となりました。また応募内容も充実し、特に最終審査に残ったものは甲乙つけがたいものもありました。

小松以西の北陸新幹線開業に向けたスケジュールも具体性を帯び、所々における新たな小松のまちづくりが再び始動しています。明確な個性を持ち、品格と奥深さと躍動感のある都市／小松が形成されていくことに大いに期待したいと思います。



こまつまちなみ景観賞
実行委員会会長
小松市長 和田 優司



こまつまちなみ景観賞
選考委員長
森 俊偉

NEW お庭部門



◎ 本江八幡神社(靈峰)

本江町

施主 本江町町内会
設計・施工者 有限会社 さんかく

地元住民が自主的に雑木や雑竹林を伐採し修景整備。歴史ある神社境内の原風景とランズシケープの魅力を再生・活動中。人々の心の拠り所として、また緑陰の憩いの場としての景観づくりに寄与。